

第36回日本てんかん学会（JES）・第4回アジア太平洋てんかん学会議（AOEC）
合同学会の開催にあたって
会長 山内俊雄

日本てんかん学会は1966年に設立され、以後、今日まで40年近くにわたり、てんかんの研究・医療の発展充実に向けて努力してきました。その間、81年には京都において国際てんかん学会を開催するなど国際的にも着実なあゆみを積み重ねてきたことはご承知のとおりであります。

ところで、91年に静岡で開かれた第25回日本てんかん学会の折りに、スペシャルセッション Epilepsy in Asia が持たれたのを機に、互いに共通の理解のもとに、アジア太平洋地区のてんかん学・てんかん医療を推進する必要性が認識され、アジア太平洋てんかん組織（Asian and Oceanian Epilepsy Organization, AOEO）が結成されました。そして、96年に第1回アジア太平洋てんかん学会議（AOEC）が韓国で開かれ、以後2年おきに台湾、インドと会を重ね、このたび、第4回AOECを第36回日本てんかん学会との合同学会として、軽井沢で開催することになりました。

幸い、国内から205題、海外27カ国から133題、計338題という多数の一般演題をお寄せいただきました。それも、アジア・太平洋地区だけでなく、アメリカ、ヨーロッパの各地から、ご参加いただいたことは大変うれしいことでもあります。しかし、アジア・太平洋地区でILAEの支部となっている国は日本の他にオーストラリア、インド、インドネシア、韓国、ネパール、フィリピン、シンガポール、タイ、台湾の10カ国に過ぎず、なかにはてんかん学会を組織できない国もあるという事実から目をそらすことはできません。

この合同学会が、てんかんという共通のテーマについて語り、それぞれの国に特有な問題を知ることによって、互いの理解が深まり、その結果、アジア・太平洋地区のてんかん研究の推進と医療の改善へと結びつくひとつの契機となれば幸いです。また、この会議を通して、日本てんかん学会と日本てんかん協会が連携を強め、国内だけでなく、近隣のアジア太平洋地区のためにもいっそう貢献するようになることを願っています。

この学会の趣旨をご理解くださり、多くの皆様のご参加、ご協力をお願い申し上げます。